

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果

京都市立大枝小学校

4月23日に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語科と算数科の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力の関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果(国語科・算数科)

国語科では、京都府及び全国平均を下回りました。半分以上正答した児童が約半数を占めており、学習内容の基礎的な定着は見られました。全13問中10問以上正答した児童は、京都府で10問以上正答した児童の平均を大きく下回っていて、4問以下の児童も数名存在していました。全体としてあと1〜2問正答できる力を身に着けることが課題です。今後は、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、思考・判断を要する問題への取組を充実させ、中位層及び上位層の伸長を目指した指導改善を進めていく必要があります。

算数科の本校の平均正答率は、京都府平均とほぼ同水準で、全国平均をやや上回りました。正答数分布を見ると、16問中、9〜10問の児童の割合が高く、多くの児童が標準的な学力を身に付けていることがうかがえます。また、13問以上の高得点層の割合は全国平均とほぼ同程度であり、学習内容の定着が見られます。また、学力のばらつきは比較的小さいです。一方で、満点層は見られず、11〜13問層の割合も府平均をやや下回っていることから、今後は思考・判断・表現を要する問題への取組を充実させ、上位層のさらなる伸長を図る必要があります。

国語科より

本校の児童は、発表や話し合いの場面で自分の考えを伝える力や文章を読んで自分の経験と結び付けて考える力が身についています。また、漢字などの基礎的な知識についても、おおむね定着していることが分かりました。多くの児童が最後まで問題に取り組んでおり、無回答が少なかったことから、学習に向かう意欲は十分にあると考えられます。

一方で、文章や資料から必要な情報を見つけたり、複数の情報を関連付けて読み取ったりすることに課題が見られました。例えば、「どの情報が自分の考えを支える根拠になるかを判断すること」や「文章全体の組み立てや内容のつながりを読み取ること」に課題が見られました。

今後は、授業の中で文章や資料を丁寧に読み取り、必要な情報を整理したり、自分の考えの根拠を説明したりする活動の充実を図ってまいります。また、家庭でも読書やニュースに触れながら、「どんなことが書いてあったのか。」「どんなことを伝えていたのか。」「その理由は何か」について会話する機会を増やしていただくことで、読解力や情報を活用する力の向上につながると考えています。

算数科より

本校の児童は、立体の体積を求めたり、直方体の面の形を考えたりする問題で高い正答率が見られました。また、小数の仕組みやグラフの読み取りなど、学習した内容を正しく理解している問題も多く、算数の基礎的な知識や技能は身につけていることが分かりました。

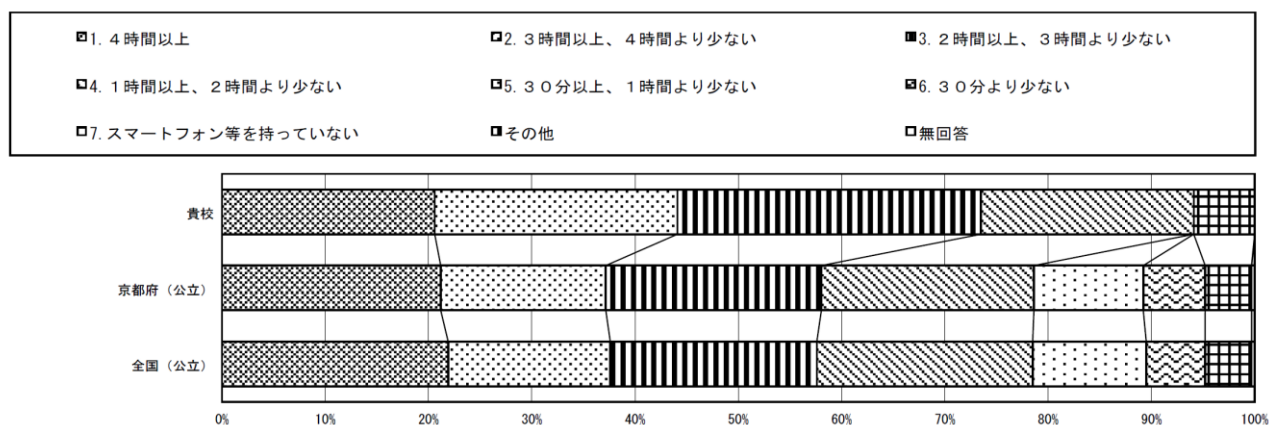
一方で、「割合」や「表や資料から必要な情報を読み取る問題」では正答率が低い傾向が見られました。例えば、「全体の何%にあたるか」から元の数を求める問題や、「どの数量を比べればよいか」を考える問題では苦手さが見られました。また、複数の情報を整理して考えたり、自分の考えや理由を言葉で説明したりする問題にも課題が見られました。

しかし、多くの児童は最後まで粘り強く問題に取り組んでおり、無回答は少ない状況でした。そのため「やる気がない」のではなく、「情報を整理しながら考える力」や「考えたことを説明する力」をさらに伸ばしていくことが今後の課題であると考えています。

学校では今後、図や表、グラフを活用しながら考える活動や、「なぜそうなるのか」を友だちと説明し合う活動を充実させ、学んだ知識を活用する力を育てていきます。

児童質問紙調査から ①

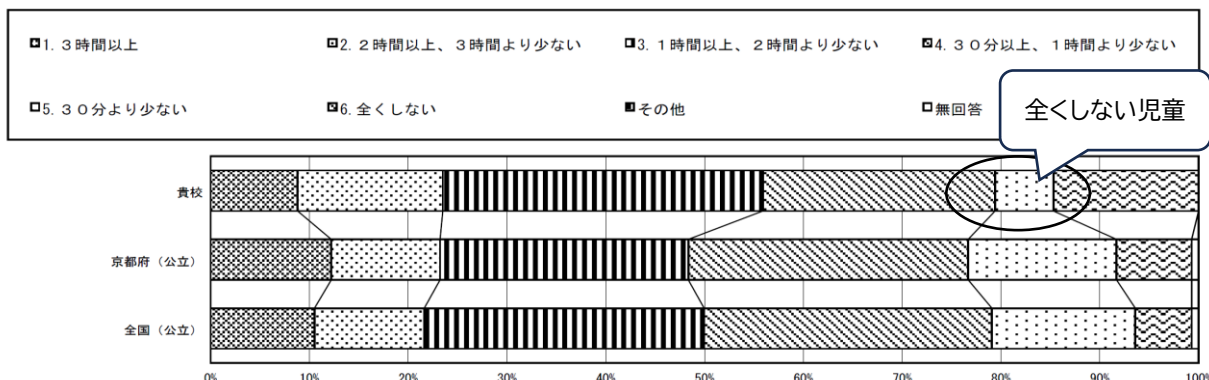
Q 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビなどで SNS や動画視聴などをしますか。(学習やゲームの時間は除く)



22時に就寝を想定すると、下校後から就寝までおよそ3時間半から6時間程度あります。その時間の多くを SNS や動画視聴に費やしている児童が少なくないことがうかがえます。スマートフォン等の利用は便利で楽しい反面、家庭学習や読書、運動、家族との会話などの時間にも影響する場合があります。この機会に、下校後の時間の使い方やメディアとの付き合い方について、親子で話し合ってみるのもよいですね。

児童質問紙調査から ②

Q 学校の授業時間以外に普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしていますか。



多くの児童が一定の学習時間を確保していることも分かりました。家庭学習の内容や時間は、一人一人の生活状況や学習課題によって異なります。宿題に取り組むだけでなく、読書や自主学習、授業の復習など、自分に合った学習習慣を身に付けることが大切です。家庭でも、お子さんがどのような学習に取り組むとよいかを話し合い、無理なく継続できる学習内容や学習時間について一緒に考えていただければと思います。

全体を通した本校の成果と課題

本校では、「過去から現在そして未来へ続く社会を生き抜く力の育成」という学校教育目標のもと、保護者や地域の皆様の協力を得て、教職員一丸となって取組をすすめています。本校が設定しているつけたい資質・能力のひとつ「自ら学ぶ力」が具体的に目指すことは、「確かな学力・学び方を身につけ、自分の学びの積み上げができる子の育成」です。その「自分で勉強する習慣」は学力向上の大きなポイントであると考えます。本校では、児童の理解やつまずきの状況に応じて取り組むことができるプリントを作成したり、児童の学びに合った学習ツールや学習形態を選択したり、まとめテストや学習の振り返りを通して、自分の学びの到達度を知り次の学習に生かしたりするように工夫しています。学校だけでなく、家庭学習でも積み重ねが大切です。意識して取り組んでいきたいものです。

保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性を更に伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくもので、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。本校の子どもたちの様子を見てみると、授業や宿題に真面目に取り組む姿が見られます。今後、さらに学力を高めていくためには、決められたことをして満足するのではなく、自分で課題を見つけ解決していく力を今後、学校や家庭でつけていくことができますよう、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。